

2019年度（第34回）レーザ安全スクールを実施

当協会は、第34回レーザ安全スクール第1期を2019年10月7日～11日、第2期を11月11日～15日に東京・芝公園の機械振興会館にて実施した。

本スクールはレーザ機器の普及に伴う機器取扱者の障害事故の発生を未然に防止するため、1983年に「レーザ機器導入・安全取扱い講習会」としてスタートし、時代の変遷に伴い「レーザスクール」、「レーザ安全スクール」と改称し、本年度「レーザ安全スクール」として31回目となった。この間、内容も日本工業規格であるJIS C 6802「レーザ製品の安全基準」および関連する個別規格の改正に対応した見直しを行うことで、最新の日本工業規格および厚生労働省・基発第0325002号「レーザー光線による障害の防止対策について」等を網羅し、光加工、光通信、レーザ医療等の各分野に従事するレーザ機器取扱者の障害事故の発生を未然に防止するために最新の規格に対応する内容とし、社会の要請に応えるものとした。

受講者数を各コース別に下表に示す。今年は昨年に比べて全体の受講者数が減少しているが、1期を10月前半に実施した場合に、受講者数が伸び悩む傾向が以前からみられることから、その影響があると分析している。カレンダーの都合により、やむを得ない場合を除き、10月後半以降に第1期を実施していきたい。

上記の状況にもかかわらず、レーザ安全管理者やレーザ安全設計のためのアドバンストコースであるMコースの受講者数が増加している。レーザ試験の1種受験者数も増加しており、レーザ取扱初級者のすそ野の広がりと併せて、管理者レベルの人材のニーズも高まっているものと考えられる。Mコースの2回開催も検討課題にすべきと考えている。

また、レーザ初級者の増加に対応するため、昨年度より本コース開講前に「やさしい光・レーザ入門」と題した予備講座を実施しているが、今年度は35名が受講した（昨年度は26名）。「本コースの受講に役立った」と評価するコメントが寄せられているが、今後、Sコースのカリキュラムとどう融合していくかが課題となる。

レーザ安全スクール コース別受講者数（）内は昨年：単位（名）

コース名	第1期	第2期	合計
Iコース：光・レーザ概論	45(31)	—	45(31)
S1コース：レーザ工学の基礎	42(77)	80(80)	122(157)
S2コース：レーザ安全の基礎	100(131)	136(135)	236(266)
S3コース：レーザ応用機器の安全	30(54)	61(54)	91(108)
S4コース：大出力レーザ機器の安全	30(65)	75(68)	105(133)
M1コース：レーザ安全管理者	(80)	96(—)	96(80)
M2コース：レーザ安全技術者	51(—)	(37)	51(37)
合計	298(438)	448(374)	746(812)

